

15日 水曜

I サムエル

13:13 サムエルはサウルに言った。「愚かなことをしたものだ。あなたは、あなたの神、【主】が命じた命令を守らなかった。【主】は今、イスラエルにあなたの王国を永遠に確立されたであろうに。

13:14 しかし、今や、あなたの王国は立たない。【主】はご自分の心にかなう人を求め、【主】はその人をご自分の民の君主に任命しておられる。【主】があなたに命じられたことを、あなたが守らなかったからだ。」

13:15 サムエルは立って、ギルガルからベニヤミンのギブアへ上って行った。サウルが彼とともにいた兵を数えると、おおよそ六百人であった。

13:16 サウルと、息子ヨナタン、および彼らとともにいた兵は、ベニヤミンのゲバにとどまっていた。一方、ペリシテ人はミクマスに陣を敷いていた。

13:17 ペリシテ人の陣営から、三つの組に分かれて略奪隊が出て来た。一つの組はオフラの道を進んでシュアルの地に向かい、

13:18 一つの組はベテ・ホロンの道を進み、一つの組は荒野の方、ツェボイムの谷を見下ろす国境の道を進んだ。

13:19 さて、イスラエルの地には、どこにも鍛冶屋を見つけることができなかった。ヘブル人が剣や槍を作るといけなく、とペリシテ人が言っていたからであった。

13:20 イスラエルはみな、鋤や、鍬、斧、鎌を研ぐためにペリシテ人のところへ下って行っていた。

13:21 鎌や、鍬、三又の矛、斧、突き棒を直すのに、料金は一ピムであった。



13:22 戦いの日に、サウルやヨナタンと一緒にいた兵のうちだれの手にも、剣や槍はなかった。ただサウルと息子ヨナタンだけが持っていた。

13:23 ペリシテ人の先陣はミクマスの渡りに出た。

サムエルはサウル王が主への信仰よりも自分の考えを優先し、主の御心に背いたことから、サウルが王から退けられると明言しました。サウル王は主によって選ばれたのですが、だからといって何をしても許されるということではありません。私達も主に任命されたからこそ主に従うべきです。

またイスラエルの軍がいかにも苦境にあるかが記されています。3000人が600人に減り、また鉄の武器を持っているは王と王子だけという弱小軍です。

そのような状況のときに信仰のない人は、神になど従っていただけないと、神無視の行動に出ます。しかし、後にペリシテ人が同士討ちをし、去っていたイスラエル兵が戻ってきたように、この状況は神の力が表れる絶好の機会なのです。

どのような中にあっても、自分が立場的に尊重されていても、恐れに支配されそうなどときにも、ただ神を「信じていのちを保つ者」でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

